

vol.41

アイアム

LOGO DESIGN by Aimi Kawagoe

特集 メゾン・ド・アイアムの家事論争 ～夫の言い分～

僕らの本音 ～男女共同参画社会に思うこと編～

子どもが思春期になっちゃった! これからどう生きる?

アラ還世代の妻よりひと言



特集 メゾン・ド・アイアムの家事論争

～夫の言い分～

僕が家事を手伝うと、「仕事が増えるからしないで」と言われるので、しなくなった。子どもが病気の時は、僕が休んで看病する時がある。そんな時は、妻が帰って来ると、家の中を見てうんざりしている。はっきり言っていわゆる大きい子ども扱い。(20代・核家族)



ごくごく、普通に手伝ってます。子どもがまだ小さいし、妻がひとりで大変だと思うので。中でも、子育ては子どもがかわいいので苦になりません。子育てにかかわらないなんて、もったいない。ぜひみなさんにもお勧めしたいです。(30代・核家族)



「男は仕事！」仕事のことで妻に手伝ってもらわないのだから、家事ではこちらをわずらわせないでほしい。休日に子どもを遊びにつれていけば、十分でしょう？(30代・同居)



料理は好きで、休みの日や、妻がいない時は、よくする。洗濯は自分の作業服だけ洗う。他の家事は、電球を変えたり、大工仕事をする。進んではやらないが、頼まれた時は、100パーセント服従。妻のすることに不満はない。(40代・同居)



言われたことはちゃんと手伝ってるのに、妻が時々ヒステリーをおこす。「自分で気づいて、してほしい」とでも、それは無理。気付かないものは仕方がない。妻のしてほしいことを、事前に気付いて、妻の思うようにやるなんて不可能です。そう思いませんか？(50代・核家族)



古いと言われるのは分かっているが、やっぱり男は仕事。うちは同居家庭ということもあるけど、ずっとそれで通してきた。ただ、最近は母が入院し、父の介護が必要になり、そのことは手伝うようになった。(50代・同居)

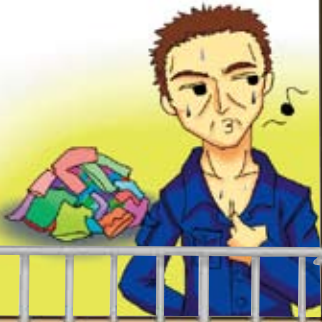




うちの夫は家で何もしない人だったけど、このごろの若い男性は、よくやってるわよねえ。でも、本音はどうかしら？今回は私が夫たちの言い分を聞いてみようと思うのよ。

家事？手伝ってますよ、言われたことは。自分からはするかって？できればしたくないから…。気がついて知らんふりをしてることもあるね。協力したほうがいいのはわかってるけど、疲れてるし…。

(40代・核家族)



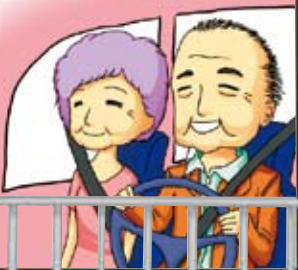
妻は低血圧で朝は苦手なので、朝ごはんはずっと自分が作ってました。娘が中学生になったので、最近は交替で、夕食は妻が担当しています。子育てという大切なことを妻が中心でやってくれているので、他のことは協力して当たり前。

(40代・同居)



ETC利用の高速代が千円となつてから妻と出掛ける機会が増えた。自分はアウトドア派、妻はインドア派なので、これまで土・日は別行動だったが、日帰りであちこち月に二度は出掛ける。ETCが夫婦円満の一因となるとは思わなかった。

(60代・夫婦二世帯)



ずっと妻は専業主婦だったので、家事は全部まかせていた。妻は車の運転も出来るので重い米などもすべて一人で買い物していた。自分の退職金で妻に新車をプレゼントしたが、少しは家事を手伝わなかった後ろめたさがあったからかも…。

(70代・夫婦二世帯)



みなさんいろいろねえ！若い世代はみんな良い夫かと思ったら、そうでもないみたい。心からやっているという人ばかりじゃないのね。ちょっと、あなた、ロミ出さなくて。それから、布団干しと、お買い物も、欲しい物メモしておきましたから…。



まったく
人使いが荒いんだから…。





夫: やれやれ…。さて、今回の「アイム」を見ると、50歳以上の男は家事を手伝いたくない人が多い。そこへいくと、ワシは良い夫だなあ…?

妻: エッ ??? そんなの定年後に私が再教育したからじゃありませんか? それも、イヤイヤ!

夫: …いや、定年前は仕事が忙しくて…。

妻: 言い訳になりません! 今の若い人たちはやってるじゃありませんか!

夫: しかし、ワシが勤めていたおかげで食べていたんじゃないか!

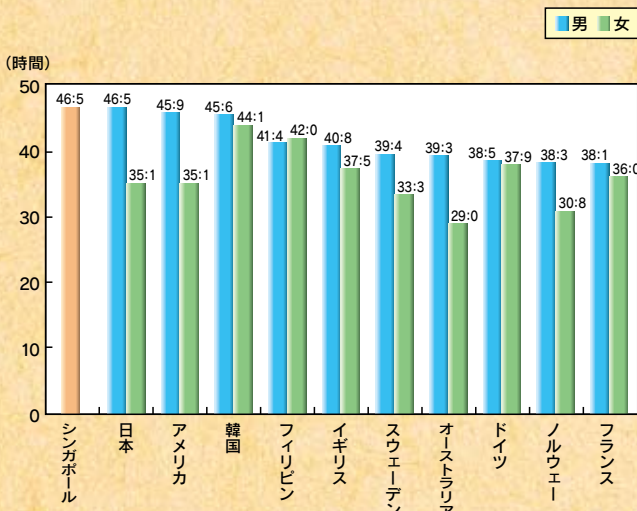
妻: ホーッ? そう言いますか? じゃあ、伺いますが、あなたが勤めに行けるように、家事や子育てしていたのは誰?



夫: ああ、わかった、わかった…。でもなあ、グラフ1を見てもわかるように、日本のお父さんたちは労働時間が長くて疲れているんじゃないよ。世界一の長時間労働じゃ。

妻: 確かにそう! でも、アメリカのお父さんも同じくらい働いてるけど、家事関連にける時間は日本の3倍よ!(グラフ2)

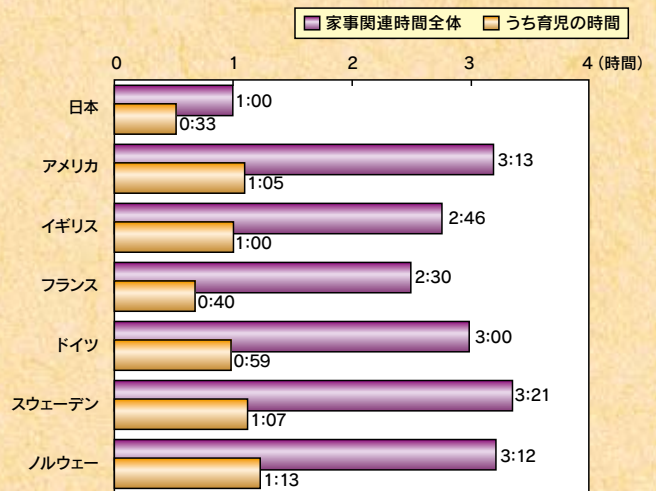
《グラフ1》 週当りの実労働時間



(備考) 1. ILO 「LABORSTA」より作成。
2. 2005年のデータによる(英国は2004年)。
3. シンガポールは男女計の数値。
4. ドイツ以外は全産業の平均。ドイツは全産業平均データがないため、産業別の平均労働時間と産業別の雇用者数により総労働時間を算出し、これを総雇用者数で除して算出。

出典:平成19年版 男女共同参画白書

《グラフ2》 6歳未満児のいる夫の家事・育児時間



(備考) 1. Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004), Bureau of Labor Statistics of the U.S. "America Time-Use Summary" (2006) 及び総務省
2. 「社会生活基本調査」(平成18年)より作成。
日本の数値は「夫婦と子どもの世帯」に限定した夫の時間である。

出典:平成21年版 男女共同参画白書



ああ、そうか…。でも同じ「これやって」というのでも言い方ひとつで気持ちよくやれるんだから…。優しく言ってくるとなあ…。

そうね、これからの老後を助け合いで行こうというのに、「けんか腰」みたいなのはよくないわよねえ…。言葉遣いひとつで違うものよねえ…。私もこれから気をつけるわ…。とにかく、コミュニケーションが大事よねえ。



今、男女共同参画社会、と言うけれど、
本当のところ、みんなは自分の性や相手の性に対して
どんなことを思っているんだろう？

みんな、本当は
どう思ってるのー？
おしえて!!

僕らの本音

—男女共同参画社会に、思うこと編—

主張①

男女平等って言うけど、女性は自分の立場が悪くなった時だけそう主張して
ない？都合のいい時だけ「女だから…」って逃げるのはおかしいと思う！



25才・男性

どちらかと言えば男性の方が、
何かあるとすぐ「女だから」って
責める気がする…。それに私自
身、「女だから…」って普段何か
から逃げたことないし。

就職や仕事で、性別によって差別され
るのは不合理だけど、だからといって
男女を「同じ」にするんじゃなくて、女
性と男性は異なることを踏まえた上
で、お互い納得するような社会づくり
をすべきだと思うなあ。

確かに都合よく「女だから」を使う人
もいるよね。でも反対に「女なんだか
らやめた方がいい」とか、「女は無理
するな」って男性から言われること
の方がずっと多いと思う。身体的な壁
は越えられないけど、能力的なもの
に壁を作ってほしくない。



18才・女性



23才・男性



23才・女性

主張②

女性だと、すっぴんとかスウェットはやっぱり許されないし、男性と付き合
うにしてもまず見た目が重要視されている気がするな。たまには手抜きし
たいけど、それが許されない社会にあると思う。外見に対するプレッシャー
があるというか…。その点、男性はそうじゃないよね？うらやましい！



24才・女性

この考えは外見を甘く見てる。内
面の良さは絶対外見にできるよ。で
も、女性の方が外見を武器にでき
るから、羨ましいというより、む
しろ得なんじゃないかな。

男性に求めるのは金銭的余裕、女性
に求めるのは家事や容姿といった
考えが社会に残っているから、女性
が見た目の良さを求めてしまうの
かも。

男女ともに、外见到気を遣いたいなら
遣えば良いし、面倒くさいなら遣わな
ければいいんじゃない？「好感を得た
いから気が抜けない」という個人
的な思いを社会的なプレッシャーに
つなげちゃだめでしょ。



23才・女性



23才・男性



23才・男性



男女平等とは？男女共同参画社会とは？と考えさせられるインタビューとな
りました。女性の社会進出が進む中、女性の主張はよく耳にしますが、男性の
声はなかなか聞こえてきません。改めて、お互いが生きやすい社会とはどう
いうものなのか、本音で話し合っていかなければならないように思います。

子どもが思春期になっちゃった! これからどう生きる?

さて、子どもが大きくなり、ふと気づくと今までとは逆に“時間”はできたようだけど自分は何をしたらいいんだろう…趣味?仕事?何もせずにのーんびり? ちょっと立ち止まって、何人かの生き方を見てみましょう。

清水麻里子さん 夫、長女(中3)、次女(小5)

『トールペイント』って、知っていますか?それは木や紙、布などに絵を描いて、古い家具やバッグもよみがえらせる魔法のペイントです。

小さい頃から、かわいい絵や雑貨が好きで手作りも好きだった清水さん。専門学校卒業後、証券会社へ。結婚を機に退職。出産後は専業主婦。育児サークルの仲間と『トールペイントの先生』を講師として招いたことがありました。「デッサン力がないから絵なんて無理!」と思っていたものが、下絵は既成のものをコピーして使うことがわかり、「これなら大丈夫!」「出来上がると達成感も得られる!」と虜に。

「でも、絵具代はなかなかかるしなあ…」そう思っていた時に友人の一言。「自分も先生になって、教えながら勉強したら?少しだけ会費をもらえば、みんなも手軽に楽しめるし、絵具代ぐらいにはなるじゃない?場所は貸すよ!」と。その友人が経営するお店で教室をはじめました。現在は自宅でも教室を開いています。

子どもたちにとってもお母さんの作品は自慢。「プレゼント用に何か作ってほしい。」と言われます。「小さい子どもがいると何もしないと思う人もいるようですが、『子連れでもこんなにできた!』とプラスに考えて!一緒に楽しむぐらいの気持ちでチャレンジしてください!」とほほえんでいました。



中島咲子(仮名)さん 夫、長男(中3)

中島さんは、独身の頃からずっと看護師として働いてきました。夜勤もこなし、「子どもが小さい時には、夫や実家の両親の協力がなければ続けられていなかったらなあ。」と振り返ってくれました。子どもが小学生になり、病気や、急なお迎えも減って、少し時間的余裕が生まれたそうです。

そんな時、以前から興味があった、介護の資格を取得しました。病棟の主任を任されるようになり、忙しいながらも、充実した日々を送っていたそうです。ところが子どもが中学生になると、心配な行動が増えました。夫は出張が多く、夜勤の時は大人が不在になります。友だち同士で夜に出歩いたり、夜遅く家に友達が数人来ていたり、中島さんは、仕事でも気持ちが落ち着かない状態になりました。何度か学校に呼び出されることもありました。

そこで、思い切って夜勤のない、ホームヘルパーの仕事に転職を決断したそうです。収入は大幅に減りましたが、ずっと夜は自宅にいるという生活で、子どもにも目が行き届き、塾の送り迎えなどのできるの、早めの決断をして良かったと思っているそうです。



森脇圭子さん 夫、長女(高3)、長男(中3)、次女(小6)

児童館職員の森脇さん。かつて、会計事務所に勤務し、職場の人と社内で結婚、退職。出産後10年間は3人の子育てを中心とし、パートや内職をしていました。その時の出来事が転機に…。

家事の代行パート中、出産後に孤立している人、うつ状態の人、育児放棄してしまう人などに出会い、自分の産後も大変だったことと思えば、「そんな人たちの役に立てる仕事をしたい。」「そのためには、知識や、技量が必要。」また、「子どもが巣立った後のことを考えて、自分を高めたい」と保育士の資格をとることを考えました。

社会人入学制度があるのを知って、短大を受験。厳しい試験をクリアするも、いざ入学を前に「子育てとの両立ができるか?」と改めて悩みました。そんな時、夫が背中を押してくれ、決断できました。

「10代の人と一緒に体育はしんどかった(笑)。けれど、子どもとの時間を犠牲にしてまで入ったのだから…」と頑張っ、卒業。しかし就職した保育園では、保育の理想と現実のギャップに悩みました。その後、児童クラブでの勤務を経て、現職へ。「子どもの頃、学校の先生になりたかったの、今はすごく楽しい!」とか。

「何かを始めるのは大変。でも、家族や友人の協力があれば、きっと不可能ではない。私ができたんだから…」と謙遜する森脇さん。「ただ、お金のかかることは子どもが大きくなる前から取り組んだほうがいいかも?成長にしたがって、金額も大きくなるから…」とのこと。



浜野祐二(仮名)さん 妻、長男(高1)、長女(小6)、次男(小4)

浜野さんは現在、運送会社の管理職です。配送の仕事をしていた時よりは、自分で、仕事の時間をやりくりできる立場になったそうです。

その頃、長男が高校に進学しました。中学生の頃から、個人競技のスポーツをしていた長男は、全国大会での入賞経験もあり、高校生になった途端に県外遠征が増えました。そのため妻は、息子への期待からか、心配からなのか、全ての遠征に同行するようになったそうです。本当は浜野さん自身も一緒に試合を見に行きたいのですが、長女、次男のため、家事を任されるようになりました。

職場では、時間に余裕のある立場になりましたが、家庭では毎日家事に奮闘しているそうです。それまで、いっさい家事をしていなかったのが、最初の頃は大変でしたが、今ではお手の物だそうです。ただ県内や、近県で試合の時は、家族みんなで応援に行くのが楽しみだとのこと。



編集委員より

思春期は、親にとっては子育ての総決算の時期。成長していく様子を着かず離れずして見ながら、いろいろな部分を修正する最後のチャンスといわれます。また、子どもからは「そろそろ僕から離れて、自分の今後の人生を考えなさいよ～」と宣言されている時期ともいえます。人生の後半戦をどう生きるか…。趣味に生きるか？仕事に生きるか？もっと、子どもに寄り添うのか？夫婦で寄り添うのか？

「ワーク・ライフ・バランス」いわゆる仕事と生活の調和を考えて、豊かな人生にしていきたいものです。

介護は人のためならず。未来の自分のためにあり。

《今回のひと言》

介護はいつまで終わるといって終着点が見えない。家族の協力が必要なことを夫はもっと認識すべきだと思う。夫も妻もやがて老いる。

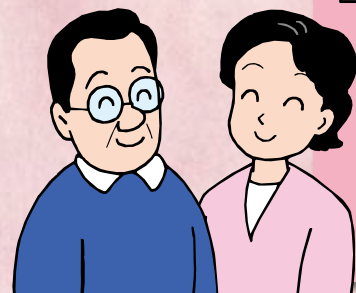
夫の会社は数年前まで好景気で休日出勤や残業が多かった。妻は結婚以来、パート勤めをしていたが、現在休業して義母の介護に専念している。義母は80歳前半までは畑仕事ができるほど元気だった。だが数年前心臓の発作で入院し、退院してからは自宅ではぼろ寝たきり状態となった。妻が「介護施設に入れて欲しい。」と頼んでも、夫は「かわいそうだ。お前がパートをやめて介護しろ。」の一点ばり。夫の会社は今不況のあおりで残業や休日出勤など一切ないが、何も手伝わうとしない。妻は10kg以上体重が減り、義母が週二回出かけるデイサービスの合間に、医者通いをしており、かなり疲労している。

夫は三人の娘の子育てを母が手伝ったのだから介護するのは当たり前。」と言っが、それなら自分も、娘たちも家事や介護を手伝うのが当たり前だろう。家事の分担表を作るなどして、それぞれの家族ができることから手伝わないと、妻一人に全部し寄せがきてしまう。妻が倒れてしまっからでは遅い。

団塊の世代の親はほとんどが高齢である。元気なうちにはいいが、病気になる介護が必要となると、家族にその負担が大きいのしかかってくる。

夫 59歳 会社員
妻 58歳 パートを休業中
夫の母 90歳 (夫の父は十年前に他界)
娘3人有。

アラ還世代の妻よりひと言



おススメBOOK

『働くパパのための「幸福な家族」のつくり方』

あいはらひろゆき+読売広告社ネオパパ研究プロジェクト 著
発行元:日経BP社 発売日:2007/02/19 価格:1,365円(税込)



仕事人間だったあいはらさんは、子どもが生まれたのをきっかけに、仕事を変え、全てを子どもや家族中心に考えた生活にシフトした。ここまで思い切ったことはなかなかできないけれど、こんな生き方がもっと認められる社会っていいかも。

『パリの女は産んでいる (恋愛大国フランス)に子供が増えた理由』

中島 さおり 著
発行元:(株)ポプラ社 発行日:2005/11 価格:1,575円(税込)



フランスでは、女性が仕事をするのは当たり前、子どもをもつことに特別な決心があるようなこともない。日本とフランスでは文化は違うけれど、自分の生き方に悩む女性たちに希望を持たせてくれる一冊。

今回の表紙

今回取材させていただいた吉中さんのお宅は、お父さんが自営業で、午前は自宅で仕事をし、午後は外回り。夜に出かけることもあって、忙しく働いています。出産前、お母さんもフルタイムで働いていました。しかも、核家族!だから、お父さんも当たり前にか家事を手伝ってくれたといえます。三人の男の子を出産して、現在、お母さんはパートで働いています。



豊小学校 5年
吉中 大智さん

そんな共働きの環境で育ったからでしょうか、三兄弟は特に役割を決めてなくてもみんなが協力して家事をこなしているそうです。「小さい時から子どもにも家事や育児を手伝ってもらったのが良かったみたいです。」とお母さん。そんな毎日が表紙の絵になりました。

三男の大智さんは家庭科が大好き。ミシン掛けを習ったので、冬休みには雑巾作りに挑戦!料理も大得意。「勉強より台所が好き」という大智さんですが、身体を動かすのも好きで、野球やサッカーのファン。今は陸上をしています。「将来は大工さんになりたい」と話す、物作りが大好きな元気な男の子でした。

パートナーからの暴力ホットライン

夫婦や恋人などからの**身体的暴力・精神的暴力・経済的暴力・社会的暴力・性的暴力・子どもを巻き添えにした暴力**に対し、下記機関があなたを支援します。

福井市男女共同参画・子ども家庭センター 相談室	福井市手寄1-4-1 (アオッサ5階)	0776-20-1541	水曜日~月曜日 (休所日:毎週火曜日、12/29~1/3)	9:00~18:00	
支援センター 配偶者暴力被害者	福井県生活学習館(ユウ・アイふくい)	福井市下六条町14-1	0776-41-7111 0776-41-7112	火曜日~日曜日 (第3日曜日、国民の祝日の翌日を除く)	9:00~17:00
	福井県総合福祉相談所 女性相談課	福井市光陽2-3-36	0776-24-6261	月曜日~金曜日 (国民の祝日を除く)	8:30~17:30
	福井健康福祉センター 福祉課	福井市西木田2-8-8	0776-36-2857	月曜日~金曜日 (国民の祝日を除く)	8:30~17:30
福井県警察本部 女性被害相談電話	福井市大手3-17-1	0120-292-170 0776-29-2110	月曜日~金曜日 (土・日・祝日は留守番電話)	8:30~17:30	
福井地方法務局 女性の人権ホットライン	福井市春山1-1-54 (福井春山合同庁舎)	ゼロナナゼロのホットライン 0570-070-810 (PHS、IP電話からはつながりません)	月曜日~金曜日 (国民の祝日を除く)	8:30~17:15	
福井県人権センター	福井市手寄1-4-1 (アオッサ7階)	0776-29-2111	火曜日~金曜日 第2、4日曜日と その前日の土曜日 (国民の祝日を除く)	9:00~17:00	
公益社団法人 福井被害者支援センター	福井市文京2-13-5	0120-783-892 0776-88-0800	月曜日~土曜日 (国民の祝日を除く)	10:00~16:00	

〔配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律〕(DV防止法)があなたを守ります。

編集後記

企画・編集/アイム編集委員

市川 薫 児玉 定美
瀬戸 よしみ 廣瀬 静子
藤田 恭平 (50音順)

アイム編集委員になり2号目の発刊となりました。編集会議を重ねる度に、責任の重さを痛感しています。仕事をしながらの、3人の子育て中の私が、編集委員の仕事もさせて頂けるのは、福井県のような子育て支援を利用できるからこそなのだと思えます。アイムを通じて、たくさんの方に、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について考えて頂けたらと思います。

※この情報誌をご希望の方は、男女共同参画・子ども家庭センターまでご連絡ください。